

目次

はじめに…………… 3

第1章

読む。生きるための「読書」

↳読むという行為を「自分に返す」↳

村上春樹の文学的軽さ…………… 14

本を読んでも役に立たない…………… 26

昆虫と小説のあいだにあるもの…………… 38

現実世界への反抗…………… 50

第2章

物語という別世界

↳脳が「非日常」を紡ぎ出す↳

ファンタジー中毒…………… 62

ファンタジーへの現実逃避…………… 74

世界は芝居であふれている…………… 86

説明などいらないという説明…………… 98

たまには文学批評について考えてみよう…………… 110

客観的な文学批評は可能か？…………… 123

第3章

昆虫と自然

- く人間の都合で動かないものがあるく
自然を相手にしなくなった日本人……………136
動物の死から「命」を考える……………147
虫を入れる「箱」問題……………160
自然現象は「そういうもの」？……………172
エジプト旅行の教訓……………183

第4章

科学の世界から見えるもの

く「真実」は生きて動くく

- ラテン語と漢学……………196
「ならない」曲者論……………208
「真実」の正体……………220

第5章

情報の嘘

- く小説より面白い「隠された事実」く
人は毎日「死んで」いる……………232
報道は本当のことを伝えない……………245
新しい情報に価値があるか……………257

第6章 思考の筋道

くわからないから考え続けるく	
神のみぞ知る事実は存在するか	270
私はなぜ政治に関心がないか	282
現実には小説のように終わらない	294

第7章 日本と欧米

くなぜ日本人はダメされやすいのかく	
「データ」をどう捉えるか	306

暴力と倫理	318
ウチとソトの日本社会	328

第8章 日本社会の形

く「政治」で世の中はよくならないく	
塀の上からの視点	340
石油なんてなくていい	351
母親と父親のすれ違い	363
「やりすぎ」をやめればうまくいく	373